第８４号
令和6年6月26日
編集責任者　鈴木　祥弘

清里農連通信

発行　清里町農民連盟
清里町羽衣町2番地
TEL 0152-25-3792
FAX 0152-25-3793

オホーツク総合振興局との意見交換会

6月4日に北見地区農民連盟主催でオホーツク総合振興局との意見交換会が開催されました。総勢55名で清里町農民連盟からは7名が参加してきました。

意見交換の内容としては、農畜産物の輸送、鳥獣害対策、病害虫（ジャガイモシストセンチュウなど）対策、畑作・野菜対策、酪農・畜産対策、について行いました。

農畜産物の輸送については、2024年問題に対する道の対応、物流コスト上昇試算についてどう考えているか、てん菜輸送など秋の収穫期のトラック不足、車両・人員不足を補う輸送車両の大型化が進み、対応する農道等の整備事業の拡充・強化、鉄道路線の維持について、意見交換をしました。

鳥獣害対策については、近年の対策状況ならびに実績、捕獲事業、狩猟免許の試験日程変更、ハーフライフル規制に関する許可の特例について、意見交換しました。

病害虫（ジャガイモシストセンチュウなど）対策については、シロシストセンチュウ緊急防除の状況、新たな抵抗性品種の開発、Gr既発生圃場においての種子馬鈴薯生産復活ルールについて、意見交換しました。

畑作・野菜対策については、24年のてん菜作付面積が国の示した指標面積を割り込む状況となったが、今後のてん菜生産に向けてどう考えているか、馬鈴薯生産を維持するには種子馬鈴薯圃場が最低限どの程度必要で、どの程度確保していく方針なのか、高温、猛暑などの異常気象が懸念され、こうした影響を回避できる栽培技術の確立や緩和できる品種改良は進んでいるのか、肥料高騰が発生した場合に対し、食料安全保障の観点も踏まえて仕組み作りの設定に向けて、道も積極的に関与してもらいたい、など意見交換しました。

酪農・畜産対策については、地域差を考慮した酪農経営に対する効果てきな対策、新規就農者・後継者が安心して経営できる環境の整備、生乳・乳製品の在庫解消対策、サルモネラ症などの家畜疾病に対するオホーツクの防疫措置や発生した場合の対策など、意見交換しました。

短い時間でしたが、各地区からのたくさんの意見・要望があり、良い意見交換会でした。

このような意見交換会に参加した経験を今後に活かしていきたいです。

吉田　哲也





北見地区農民連盟　森下税理士を迎えての税務研修会

6月7日に、北見地区農民連盟主催の「森下税理士を迎えての税務研修会」に、久保書記長、市橋税対策副委員長と岩瀬で参加してきました。

主な話としては、6月からはじまりました「定額減税のポイント」について、同月に定額減税の処理が関わる前期源泉徴収簿の受付が控えていたので、じっくり講演を聞いてきました。

ざっくりとした説明では、所得税で3万円控除されます。給与所得者（専従者）は、令和6年6月から12月までの源泉徴収税額より随時3万円控除をしきるまでして、しきれない場合は年末調整で控除、それでもしきれない場合は給付が行われます。事業所得者は、予定納税がある方はそこで控除され、予定納税がない方は確定申告で精算されます。

住民税では1 万円控除されます。給与所得者は、令和6年6月分は特別徴収せず、令和6年度分の住民税の所得割額から減税額を差し引いた額を11 等分し、令和6年7月から令和7年5月までの11カ月間で毎月特別徴収されます。事業者所得者は、令和6年度分の住民税の第1 期分納税額から控除して、控除しきれない場合は、第2期分以降から順次控除します。

講演後の質問意見交換では、いろいろな条件やケースについてどう処理するのかの質問が出て、今年限りとはいえ事務方泣かせな政策だなと個人的に感じました。とはいえ決まった事なので、この後何回かあるであろう講習で、きちんと理解して税務処理に望んでいこうと思いました。

岩瀬　豊秀

編集後記

6月も後半に差し掛かってまいりました。
天候がなかなか安定せず作業や作物の心配など気持ちが焦ることもあるかと思いますが、安全第一で作業にあたっていただきたいと思います。

志賀